10th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催　伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
（若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）
後援　宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社
協賛　富士写真フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入　選　者

各　賞	題	氏　名	住　所
最優秀賞（宮城県知事賞）	静寂	伊藤利喜雄	岩手県一関市
優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）	朝の伊豆沼	庄子光男	宮城県仙台市
金賞（若柳町長賞）	黎明（れいめい）	丹野亮一	宮城県仙台市
金賞（築館町長賞）	梅雨晴れの太公望	伊藤浩	宮城県古川市
金賞（迫町長賞）	日の出前	梶原宗孝	登米郡東和町
銀賞（若柳町観光協会会長賞）	陽光の中で	横田弘	宮城県塩釜市
銀賞（築館町観光協会会長賞）	白鳥の舞踏会	廣野昌邦	宮城県塩釜市
銀賞（迫町観光協会会長賞）	寒月連雁	天野宗謙	宮城県仙台市
銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）	虹	脇坂巌	宮城県仙台市
銅賞（河北新報社賞）	夜明の羽音	栗林和仁	宮城県仙台市
銅賞（読売新聞社賞）	月とガン	佐藤達夫	宮城県仙台市
銅賞（朝日新聞社賞）	ママ待って	中畑俊雄	宮城県仙台市
銅賞（毎日新聞社賞）	初冬	栗城高志	岩手県一関市
銅賞（岩手日報社賞）	幻影	小泉清孝	栗原郡若柳町
入選	雪景	佐々木伸	登米郡中田町
入選	沼の色彩	林かつ子	宮城県仙台市
入選	悩む二人	須田喜悦	牡鹿郡女川町
入選	ひとりぼっち	松岡浩昭	志田郡鹿島台町
入選	いでつく岸辺	三塚律子	宮城県仙台市
入選	おご飯あげるね	鈴木和人	加美郡色麻町

総　評

待望の21世紀を迎えました。新しい千年期。それも、21世紀という歴史上稀に見るタイミングを私たちは生きています。これを幸運と思い、この幸を自然界に向けても思いやられるようにしたいと思います。この伊豆沼、内沼を故郷として（野鳥たちがシベリアに帰っていくという発想ではなく、冬になるとベースキャンプの日本に飛来すると考えたい）遠い大陸から帰ってくる野鳥たちにとっても、同様です。人間か西暦という基準をもうけて2000年という区切りが終わり、新たなる時代へ向かっていくためのさいしょの年。それが今年です。

今年も伊豆沼内沼の写真コンテストの審査をさせていただきました。応募作品の水準は次第に上がっていると思いますが、作品全体が平均化していて、イマイチ、パンチがありませんでした。そこが少し残念でしたが、このような素材は、1年や2年というような短い期間ではなく、5年10年、さらに永い時間で取り組んでいくべきものだとおもいます。地球にとって伊豆沼とは何だろうか。野鳥とは何だろうか。そして、自分とは……というように、鳥たちや沼の風景を撮影する度に思い出していただきたいと思います。これが写真撮影の原点だと思います。

フォトコンテスト審査員　**竹　内　敏　信**

1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。感覚の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、「桜」をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会理事、自然科学写真協会理事、日本写真協会会員、日本写真芸術学会会員、日本写真芸術専門学校・現代写真研究所の各講師。

最優秀賞（宮城県知事賞）「静寂」　伊藤　利喜雄

〔評〕白鳥たちが眠りについています。沼からは、昼間の鳴き声や羽音が消え、シンとして音のない静寂感が漂っています。この色合いは、月光のような雰囲気があり、その光のなかで鳥たちはひたすら眠る。この様な夜中の鳥たちを捉えた視覚は、今までになく、それが新鮮な雰囲気をたたえています。

優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）「朝の伊豆沼」庄子　光男

〔評〕夜明けとともに一斉に飛び立つ沼の鳥たち。望遠レンズを巧みに使い、飛び立とうとしている一群。すでに上空を乱舞している一群。水面で羽を休める一群とが、互いに調和して朝の沼の雰囲気を引き出してくれています。遠景の岸辺、背後の山の処理もとても美しい。

金賞（若柳町長賞）
「黎明」（れいめい）
丹野　亮一

〔評〕沼に降雪がありました。湖面は薄く凍りつき、その上に雪が載っています。まだ明けやらぬ早朝の時間帯なのでしょう。雪が無く、反射の強い氷面に空の輝きが映し出されています。サギの姿といい、色調といい、なかなか品のある構成の作品となっています。

金賞（築館町長賞）
「梅雨晴れの太公望」
伊　藤　　浩

〔評〕湖面一面を埋め尽くしたようなハスの葉の風景が壮観です。そんな緑の湖面の岸辺で、のんびりと釣りを楽しむ一人の人。これを太公望と呼ばないでなんとする。まさに、太公望の神髄を捉えた気持ちのいい作品。釣り竿がくねっと曲がっているのは、獲物をつり上げる瞬間。

金賞（迫町長賞）
「日の出前」
梶原　宗孝

〔評〕東の空が赤々と染まり、強烈な太陽の光芒が天空に向かって伸びていきます。その壮厳な美しさを、いいタイミングで捉えています。一日のドラマが展開されていく。そんな朝の空気感をたくみに捉えています。

銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「陽光の中で」　横　田　　弘

〔評〕超望遠レンズをうまく使って、絶妙のフレーミングを生み出しました。これぞ沼の風景の象徴です。太陽を受けて輝く水面の様子と色合い。その中にシルエットで浮かび上がるサギ達の姿がとても印象的です。

銀賞（築館町観光協会会長賞）
「白鳥の舞踏会」　廣野　昌邦

〔評〕数十羽のハクチョウがいっせいには羽ばたいたような。あるいは着水したような鳥たちの群舞をいいタイミングで捉えた作品です。大きく羽を広げた白鳥の姿がダイナミックで、力強い作品になっています。

銀賞（迫町観光協会会長賞）
「寒月連雁」　　天野　宗謙

〔評〕なかなかドラマチックなタイトルが気に入りました。細い三日月がとても魅力的です。薄明かりの中を飛んでいく雁の姿に静寂感が漂っています。薄明かりの空と、雲、樹林とが見事に調和してドラマを生み出しています。ネガカラープリントの、色が悪い点が難。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「虹」　　脇　坂　　巌

〔評〕湖面の西岸から東岸にかけて、大きな虹が生まれました。沼を跨ぐように浮かび上がった姿は、まさに虹の架け橋です。いいタイミングで、ダイナミックに捉えられた虹の姿が美しい。

銅賞（河北新報社賞）
「夜明けの羽音」　栗林　和仁

〔評〕夜明けとともに、一斉に飛び上った野鳥の群舞が美しい。朝の静寂を破るように、羽音と鳴き声が湖一帯に広がります。画面の天地をカットして、横長の映画サイズ（パノラマサイズ）で見せると迫力の出る作品です。

銅賞（読売新聞社賞）
「月とガン」　佐藤　達夫

〔評〕天野さんの「寒月連雁」と共通する狙いです。この作品は満月で、しかも色彩的にも美しい色合いです。画面の単純化していて美しい。だが、飛行する鳥の群れが少なすぎた。タイミングの難しさは判りますが。

銅賞（朝日新聞社賞）
「ママ待って」　中畑　俊雄

〔評〕夏の最盛期でしょうか湖面一面に咲き誇るハスの前を、二羽のサギが行く。親子の大きさ、仕種の違いや、蓮の花の色合いとの対比が面白い。沼の広がりを感じさせる空間構成が優れています。

銅賞（毎日新聞社賞）
「初冬」　栗城　高志

〔評〕夏の間、あれほど旺盛に咲き誇った蓮の花。その蓮の実が、朽ちて湖底に沈んでいきます。早朝、霜が蓮の実に付着して、輪郭をはっきりと示してくれました。そこが面白い。

銅賞（岩手日報社賞）
「幻影」　小泉　清孝

〔評〕早朝、あるいは宵闇での撮影だと思います。ブルートーンにしきられた画面のなかで、数羽のサギが羽を休めています。そんな静寂感が漂って、まさに幻影をみているような美しい作品です。

入選
「雪景」　佐々木　伸

〔評〕シンシンと降り続いている雪が、背景を霞ませて、中央の３本の木立を象徴的に抽出いたしました。雪が降り続く肌寒い空間を静かに語ってくれている作品です。

入選
「沼の色彩」　林　かつ子

〔評〕沼の脇に設えられた小さなビニールハウス。そこには色とりどりのピーマンが植えられていて不思議な空間を感じさせてくれています。右側の若いピーマンを、もっと中央部に寄せて大きく捉えると力が出ました。

入選
「悩む二人」　須田　喜悦

〔評〕この二羽はなぜか首をかしげていて、あたかもそれが悩む人間のようにも感じられるところがミソ。この場合のタイトルには「二人を」入れないほうが切実感が出ます。二人とすると人間なってしまいますから。

入選
「ひとりぼっち」　松岡　浩昭

〔評〕この鳥そのものは、一羽で行動しているのでしょうが、それを孤独に思って「ひとりぼっち」というタイトルを付けてあります。確かにそんな感じのする点が、この作品の妙味ともいえましょう。

入選
「いでつく岸辺」　三塚　律子

〔評〕厳しい冬を迎えた沼の岸辺。氷が張り詰めた湖面と、２艘の小船、静かな岸辺に冷気が漂っているのが感じられます。縦に船を配して、奥行きが感じられるような構図が素晴らしい。

入選
「おご飯あげるね」　鈴木　和人

〔評〕幼い女の子の背丈ほどもある白鳥。その鳥に、餌を与えようとしている女の子の真剣な表情が、とても面白いと思います。白鳥が後ろ向きになって、顔が見えない点が惜しいのです。